土屋文明著作目録（明治期・大正期）

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
未収録	明治36年	「小琴をば風のまにまにかなづるは神にやあらむ松の秀枝に」（昭和5年、改造社版現代短歌全集第十五巻土屋文明集巻末記「数へ年十四、高等三年の時」）
群馬	7号（明治39年3月）	散文「日曜日記」　散文「冬の貧家」
群馬	8号（明治39年12月）	俳句3句
群馬	9号（明治40年3月）	散文「友と写しゝ写真に題す（即題）」
群馬	10号（明治40年11月）	「一町の間（写生文）」　俳句3句
群馬	11号（明治41年3月）	「浅間山を望む（写生文）」　俳句5句　雑報「天長節拝賀式」　雑報「冬季休業」　雑報「雪中遠足」
アカネ	1巻5号（明治41年6月）	蛇床子「薬師が丘（叙事文）」「雑吟（6首）」
アカネ	1巻6号(明治41年7月)	蛇床子「化学実験室（長詩）」「家族（2首）」「嵐(1首)」
アカネ	1巻7号(明治41年8月)	蛇床子「山人の歌（10首）」「雑吟(3首)」「旅（1首）」
アカネ	1巻8号(明治41年9月)	蛇床子「夏大根の花（写生文）」「夕立（6首）」「朝顔(3首)」「秋の夜（1首）」
アカネ	1巻9号(明治41年10月)	蛇床子「月（2首）」「森の衰へ（長詩）」（一、五月雨　二、落葉）
群馬	12号（明治41年11月）	散文「愛郷論」　短歌「榛名行（18首）」　俳句5句　雑報「学芸部大会」
アカネ	1巻11号(明治41年12月)	蛇床子「燈影歌稿（24首）」（箱根6　追憶4　悼4　病める人を懐ふ5　雑5）
アカネ	1巻12号(明治42年1月)新年号	蛇床子「枯野（小説）」
ホトトギス	12巻5号(明治42年2月)	地方俳句界の欄に、神経痛のため寝込んでいた村上成之の代わりに土屋蛇床子の名で紫苑会の報告文掲載。　蛸魚書屋蕪村忌（上和田町）　同欄には磯部の作として「湯煙にぬれて動かず注連飾　蛇床子」が掲載。
アカネ	2巻2号(明治42年3月)	蛇床子「霜（4首）」「心のゆらぎ（7首）」　妙音寺短歌会詠草「歴史及地理」（「クラオパトラ」2首　「鉄吉汗」2首）
群馬	13号（明治42年3月）	散文「白楽天と菅公」　蛇床子詠草22首　俳句10句　雑報「発火演習記事」　「修学旅行記録（箱根方面）」※記録係として名前はあるがもう1人の係員名で入稿
アカネ	2巻3号(明治42年4月)	「散歩の謌（14首）」
阿羅々木	1巻3号（明治42年4月）	蛇床子「柿の木(7首）」「羇旅漫吟底倉温泉（8首）」「七圦歌稿－旅行中の歌（1首）」「病める蟬室大人を懐ふ（4首）」
アカネ	2巻4号(明治42年5月)	「雑謌（6首）」（病む人に2　別るゝ人に4）
アララギ	2巻1号(明治42年9月)	「睡蓮の花（6首）」（→「睡蓮」ふ）　［無題］5首（未収）　無一塵庵歌会2首
アララギ	2巻2号(明治42年10月)	「赤城湖畔の一夜（6首)」（→「赤城湖」ふ）　「海べにて（3首）」　子規居士八周忌歌会（9月12日　旧廬）5首　高崎短歌会2首
アララギ	2巻3号(明治42年11月)	巻頭（[10月]10日　編集会即吟）1首　「岩垣水」10首　東京短歌会（4月11日　民部宅）1首（5月9日　山本董湫宅）1首　（10月9日　根岸旧廬）1首　高崎歌会1首
群馬	14号（明治42年11月）	「高山先生の訃を聞きて（9首）」
[一高] 校友会雑誌	191号(明治42年12月)	一高短歌会詠草3首
アララギ	2巻4号(明治42年12月)	十一月歌会（14日　根岸庵）3首（記録も）　高崎短歌会2首
アララギ	3巻1号(明治43年1月)	小説「七圦物語」　「さざんくわ」13首（タイトルは目次のみ）　高崎短歌会1首
[一高] 校友会雑誌	194号（明治43年2月）	「彗星」13首
アララギ	3巻2号(明治43年3月)	新年歌会（1月9日　根岸庵）1首
アララギ	3巻3号(明治43年4月)	東京歌会（3月13日　根岸庵）2首
アララギ	3巻4号(明治43年5月)	小説「影」　「めしひの母(5首）」「曇(3首）」
アララギ	3巻5号(明治43年6月)	東京歌会（5月15日　小石川茗荷谷庵）1首
読売新聞	明治43年6月5日号	一高短歌会詠草1首
アララギ	3巻6号(明治43年8月)	「消息（二）」(6月25日付）
アララギ	3巻7号(明治43年9月)	「東京消息（一）」（左千夫の水害の大略）
アララギ	3巻8号(明治43年10月)	子規居士九周忌歌会（9月19日　根岸旧廬）名前のみ掲載
アララギ	3巻9号(明治43年12月)	短歌研究「柿乃村人氏の『野の上』三首につき思ひついた事ども」　「蹉跌の跡(13首）」（挽歌7　たま藻丹つゝじ6）　茂吉庵小集（11月23日茂吉宅）「流る」1首
アララギ	4巻1号(明治44年1月)	「冬草(5首）」
アララギ	4巻3号(明治44年3月)	東京歌会（1月15日　根岸旧子規廬）4首
アララギ	4巻4号(明治44年4月)	「雛草(10首）」　小説「秋の一日（〇〇〇〇旅行記より）」　東京歌会(2月19日　左千夫宅)2首(3月12日　茂吉宅)4首
アララギ	4巻6号(明治44年6月)	「灰ふる日（4首）」［無題］（3首）（未収）　東京歌会（5月14日　旧子規庵）2首
台湾愛国婦人	33巻（明治44年8月）	左千夫「月草」　無名氏「伊香保沼」　※どちらも『文明書簡集』寺田憲宛によると文明の著
アララギ	4巻9号(明治44年10月)	「精神病院の夕に居て（小品）」　「消息一束」（9月19日）
アララギ	5巻1号(明治45年1月)	「雑歌及相聞（8首）」　左千夫の消息（文明筆記）
アララギ	5巻2号(明治45年2月)	「暗き遠路-語り更せし夜の思出に(18首）」　東京歌会詠草（12月24日　平福百穂宅）2首

群馬県立土屋文明記念文学館作成　2020/11/7

土屋文明著作目録（明治期・大正期）

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
アララギ	5巻5号(明治45年5月)	［無題］（3首）（未収）　長詩「白きもの二つ（幼かりし日の恋・淋しきよろこび）」
台湾愛国婦人	42巻（明治45年5月）	「藤と橘」
アララギ	5巻6号(明治45年6月)	［巻頭言］「うたゝね（7首）」　談話会記事（柿の村人作品合評5月6日憲吉宅）
台湾愛国婦人	44巻（明治45年7月）	蛇床子「青葉の妙義山」
アララギ	5巻9号(大正元年9月)	「みづうみ（36首）」　「消息一束」（6月23日、7月9日）
アララギ	5巻10号(大正元年10月)	「雨の夜(8首）」
アララギ	5巻11号(大正元年11月)	「ゆふべ（6首）」　短歌2首
台湾愛国婦人	48巻(大正元年11月)	榛南「秋芽子の花と棹鹿の声」
アララギ	6巻1号(大正2年1月)	「もみぢ(7首）」　詩「くも」
台湾愛国婦人	50巻(大正2年1月)	土屋榛南「舎君多羅姫物語」
アララギ	6巻2号(大正2年2月)	「森の入日（4首）」
アララギ	6巻3号(大正2年3月)	「赤き木の実(8首）」
台湾愛国婦人	52巻(大正2年3月)	榛南「春がすみ」
台湾愛国婦人	54巻(大正2年5月)	榛南「大和撫子」（評訳）
台湾愛国婦人	55巻(大正2年6月)	土屋榛南「五月雨の頃」（評訳）
アララギ	6巻6号(大正2年7月)	「百穂庵小集」2首
青年日本	1巻6号(大正2年7月)	榛南「旧一高と新一高」
青年日本	1巻7号(大正2年8月)	［無題］1首（未収）　榛南「女性雑感」
アララギ	6巻9号(大正2年10月)	「りんどうの実（16首）」（→「山上相聞」ふ）　書簡「赤城より」其一～其七
アララギ	6巻11号(大正2年11月)	追悼文「わかれ」
青年日本	1巻10号(大正2年11月)	［無題］5首（未収）　「信濃路の秋（一）」
台湾愛国婦人	60巻(大正2年11月)	榛南「秋のうた」　「短歌選抄」「竹囲詞壇詠草/読者文芸」
青年日本	1巻11号(大正2年12月)	［無題］5首（未収）　「新しき短歌の境地 『赤光』の批評に代へて」　「信濃路の秋［二］」
初出未詳	明治42年～大正5年	「左千夫先生逝去」（『ふゆくさ』目次「左千夫先生逝く」） 畳まざる洗ひ衣きるをまがごとと家人にいはれいそぎいでたり あるがままの蚊取線香を上げたれば落ちてたまれる虫のかなしさ 夜の風はしげく吹き入り先生はかけ衣（ぎぬ）の下に動くがにみゆ
アララギ	7巻1号(大正3年1月)	「憂愁の水（17首）」（→「山上相聞」ふ）
青年日本	2巻1号(大正3年1月)	［無題］7首（→「山上相聞（14首のうちの6首）」『ふゆくさ』）
台湾愛国婦人	63巻(大正3年2月)	土屋榛南（選）「短歌選抄」3首（文明）（→「冬草」ふ）
第三次新思潮	1巻1号(大正3年2月)	井出説太郎「雪来る前(戯曲)」
青年日本	［2巻2号］(大正3年2月)	［無題］4首（未収）　土屋榛南「田園生活の人々へ」
青年日本	［2巻3号］(大正3年3月)	［無題］4首（未収）
台湾愛国婦人	64巻(大正3年3月)	土屋榛南「短歌選抄」
アララギ	7巻4号(大正3年4月)	「白楊の花(7首）」（→「白楊花」ふ）
第三次新思潮	1巻3号(大正3年4月)	井出説太郎「妹のこと（小説）」
台湾愛国婦人	65巻(大正3年4月)	「短歌選抄」2首（故郷の春にかへれば火の山の灰は春山に降りてかなしき、灰を浴みて岡に立つおぼろ陽に桃赤々と咲きて居るかな）→「灰ふる日」ふ　楢原の春の若芽に灰ふる日木の間にうすき影をふみつつ、灰をかぶり林いづればうすら日に桃あかあかと咲ける原あり）
台湾愛国婦人	66巻(大正3年5月)	土屋榛南「短歌選抄」3首（未収）
第三次新思潮	1巻4号(大正3年5月)	井出説太郎「従姉-或る男の物語から（小説）」
台湾愛国婦人	67巻(大正3年6月)	土屋榛南「短歌選抄」　土屋文明「奉悼（7首）」
アララギ	7巻5号(大正3年6月)	「アララギ前号批評」（合評）
アララギ	7巻6号(大正3年7月)	前月号批評（千樫赤彦批評）
台湾愛国婦人	68巻(大正3年7月)	「短歌選抄」3首（未収）
第三次新思潮	1巻6号(大正3年7月)	井出説太郎「桑の実（小説）」
第三次新思潮	1巻7号(大正3年8月)	井出説太郎「誘惑（小説）」
台湾愛国婦人	69巻（大正3年8月）	土屋榛南「短歌選抄」
アララギ	7巻7号(大正3年8月)	「曇日の若楓(8首）」
台湾愛国婦人	70巻（大正3年9月）	土屋榛南「短歌選抄」3首（未収）
台湾愛国婦人	71巻（大正3年10月）	「短歌選抄」
アララギ	7巻9号(大正3年10月)	「街樹（8首）」
アララギ	7巻10号(大正3年11月)	「短歌小観　一」　茂吉あて書簡(編集所便)
台湾愛国婦人	72巻（大正3年11月）	土屋榛南「オルレアンの少女」　土屋文明「短歌選抄」
結婚生活	**大正3年11月　アカギ叢書91**	**ストリンドベルヒ原作　井出説太郎翻訳**
台湾愛国婦人	73巻（大正3年12月）	「短歌選抄」
アララギ	7巻11号(大正3年12月)	「短歌小観　二」
台湾愛国婦人	74巻（大正4年1月）	「短歌選抄」
台湾愛国婦人	75巻（大正4年2月）	土屋榛南「オルレアンの少女」　「短歌抄」
アララギ	8巻2号(大正4年2月)	「短歌小観　三」
台湾愛国婦人	76巻（大正4年3月）	榛南抄訳「オルレアンの少女」

土屋文明著作目録（明治期・大正期）

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
アララギ	8巻3号(大正4年3月)	「短歌小観　四」
アララギ	8巻4号(大正4年4月)	「短歌小観　五」
台湾愛国婦人	77巻(大正4年4月)	「青の階調」(茂吉・節ほかの短歌評)
台湾愛国婦人	78巻(大正4年5月)	「初夏の天地」(左千夫・茂吉ほかの短歌評)
台湾愛国婦人	80巻(大正4年7月)	榛南「夏の花（短歌抄）」
台湾愛国婦人	83巻(大正4年10月)	榛南「大嘗祭の歌」
アララギ	9巻2号(大正5年2月)	評論「短歌に於ける写生」
アララギ	9巻3号(大正5年3月)	故長塚節一周忌歌会（2月13日　青山茂吉宅）5首
台湾愛国婦人	88巻(大正5年3月)	土屋榛南「春霞・・・・・・短歌評釈」
アララギ	9巻4号(大正5年4月)	「白楊花(8首）」（→「春宵相聞」ふ）
アララギ	9巻6号(大正5年6月)	「金槐集私鈔をよむ」
アララギ	9巻9号(大正5年9月)	「梟(8首）」「庭前秋色(8首)」
アララギ	9巻10号(大正5年10月)	「野分(8首)」（→ふ4首）　「赤彦の歌を評す」
アララギ	9巻11号(大正5年11月)	「千樫の歌を評す」
波斯神話	**大正5年12月24日　向陵社**	**翻訳**
第四次新思潮	2巻1号（大正6年1月）	小説「小鳥飼ひ」
アララギ	10巻1号(大正6年1月)	「船河原橋(8首)」（→ふ6首）
アララギ	10巻2号(大正6年2月)	新刊紹介（土屋文明『波斯神話』）
アララギ	10巻4号（大正6年4月）	「万葉集中民謡の研究」「櫂の音（8首）」（→「防波堤」ふ）　「茂吉の歌を評す」　選歌評
珊瑚礁	1巻4号(大正6年6月)	「枸杞の芽（14首）」（→12首ふ）※5月11日稿
アララギ	10巻5号（大正6年5月）	選歌評
アララギ	10巻6号（大正6年6月）	「蚕室の一夜(8首）」「坂本四方太先生の追憶」　「万葉集短歌輪講30」　中村憲吉歓迎歌会（5月22日　茂吉宅）3首　選歌評　編集所便（文明帰郷、徴兵検査）
アララギ	10巻7号（大正6年7月）	「林泉集を読んで 上」「梟(8首)」「万葉集短歌輪講31」　選歌評
アララギ	10巻8号(大正6年8月)	「林泉集を読んで 中」「万葉集短歌輪講32」　左千夫五周忌歌会（7月8日　亀戸普門院）1首　選歌評
珊瑚礁	1巻6号(大正6年8月)	珊瑚礁七月小集（7月21日　西神田倶楽部）1首
珊瑚礁	1巻7号(大正6年9月)	「庭前即事(16首）」（→10首ふ）　珊瑚礁八月例会（8月12日　西神田倶楽部）2首
アララギ	10巻10号(大正6年10月)	「ある朝（8首）」（→「大井の浜」ふ）　「雨の日（8首）」　編集所便（文明信濃富士見高原）
アララギ	10巻11号(大正6年11月)	「夜のかへり（8首）」（→「大井の浜」ふ）　「万葉集短歌輪講35」　富士見歌会（10月17日）2首（記録も）　編集所便（文明令弟急死）
初出未詳	大正6年	「亡弟と相伴ひて春山に一日暮らせし昨日と思ふに」（『ふゆくさ』の目次「亡弟」） 松の木の幹はくろけれ本滋き小楢が原に夕あかりあり 年を経て来しそひ原の榛の木の若芽みなふき郭公も近し たづの木の枝をたわわに咲くあけび紫こごり玉に貫きたり たづの木の枝に上らせ折らしめしあけびもいまは心がなしき たらの芽の重き負はせて芝山をいそがせし姿目につきて去らず 弟をはふりの道の天はれてぬるで紅葉はそよぎ光るも 父親がつひのなぐさとはかしむる袴もあはれ吾が古はかま
アララギ	11巻1号（大正7年1月）	「森林の吏（8首）」（→「富士見原の茶屋」7首ふ）　「海苔の芽（8首）」「短歌入門　緒言一、短歌と言語」「万葉集短歌輪講36」　斎藤茂吉氏送別会歌会（12月25日　茂吉宅）1首　「編集所便」
アララギ	11巻2号（大正7年2月）	「寒潮（8首）」「えごの花（8首）」「短歌入門　二、言語の類性と詩の個性」「万葉集短歌輪講37」
アララギ	11巻3号（大正7年3月）	「榛の花（8首）」「踏青（8首）」「短歌入門　三、芸術と遊戯」「編集会歌評」
アララギ	11巻4号（大正7年4月）	「短歌入門　四、調子の要素」「駁論二則（半田良平君の写生啓蒙の論、三井甲之氏の歌評）」「万葉集短歌輪講38」　編集所便（文明、信濃諏訪高等女学校へ赴任・・・）
アララギ	11巻5号（大正7年5月）	文明歓迎歌会（4月13日　諏訪鷲の湯）1首
帝国文学	24巻5号(大正7年5月)	小説「弟を死なす」
アララギ	11巻7号(大正7年7月)	「万葉集短歌輪講40」
アララギ	11巻9号(大正7年9月)	「薄荷草（8首）」「碓氷嶺（8首）」
アララギ	11巻10号(大正7年10月)	「万葉集短歌輪講42」　諏訪アララギ歌会（8月17日　頼重院）2首
アララギ	11巻11号(大正7年11月)	「湯ある家（8首）」　「雑詠（8首）」（→「上諏訪雑詠（7首）」）
アララギ	11巻12号(大正7年12月)	「後山村（8首）」（→9首）　諏訪アララギ歌会（10月17日　竜泉寺）1首

群馬県立土屋文明記念文学館作成　2020/11/7

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
初出未詳	大正7年	「後山村」（『ふゆくさ』）のうち 桜の木のもみぢ並べる谷せまくきはまるところいただきに出づ あけびの葉霜に紫となりにけり山菊の花は枯れ早くして うら枯れし松の下草刈る男あさの山にて鎌の音せり 歩むわれ草山かげに入るなればおのづから思ふおのが姿を
アララギ	12巻1号(大正8年1月)	「田宿の家　一（8首）　二（8首）」「短歌入門[五、]短歌の調子について」「大正七年のアララギ」
アララギ	12巻2号(大正8年2月)	諏訪歌会詠草（7年12月1日　俵井）1首　諸会報・東京アララギ会1首（原中の弟の墓場冬になりて地肌あらはに霜のとけ居たり→原なかの弟の墓は吹き曝れて地肌あらはに霜のとけゐる「弟の墓」ふ）
アララギ	12巻3号(大正8年3月)	諏訪歌会詠草（1月15日　スハホテル）2首　「万葉集短歌輪講44」
アララギ	12巻4号(大正8年4月)	「寒き朝（3首）」　「ところどころ（4首）」（→「歳末上京旧居のあたりを過ぐ」3首ふ）　選歌評
初出未詳	大正8年	「寒き朝」（『ふゆくさ』）のうち 弟の病に妻を行かしめて寒き留守家にひとりすみをり 土湯の石の温みに遊ぶ幼児等頬こごえ居りうす日ぐもりに
アララギ	12巻5号(大正8年5月)	「万葉集短歌輪講45」　選歌評
アララギ	12巻6号(大正8年6月)	「わさびの花（6首）」（→8首ふ、今ははや帰りねむらむ諏訪の家の温泉をこそをいのちとは思へ→かくしつつ帰らむと思ふ諏訪の家に温泉あるこそうれしかりけれ）「万葉集短歌輪講46」 諏訪歌会詠草（5月8日　湖明館）1首
初出未詳	大正8年	「わさびの花」（『ふゆくさ』）のうち 堰の水かりしき原にあふれたり鳴きてせはしき春鳥のこゑ げんげ田はいま暮れむとすうつろなる心をもちてわがかへるなる
アララギ	12巻7号(大正8年7月)	「追憶のさまざま」
短歌雑誌	2巻11号通巻23号(大正8年8月)	「夏の旅一首」
波斯神話　縮刷版	**大正8年9月15日　三星社出版部**	翻訳
アララギ	12巻9号(大正8年9月)	選歌評
アララギ	12巻10号(大正8年10月)	「左千夫先生の万葉新釈」　「ヂシヤの花（7首）」（→「ぢしやの花」ふ）
アララギ	12巻11号(大正8年11月)	「万葉集短歌輪講47」
アララギ	13巻1号(大正9年1月)	「左千夫先生の万葉新釈について（二）」「枯芝山（8首）」「万葉集短歌輪講48」　諏訪アララギ歌会（8年11月22日　まる屋）1首
アララギ	13巻2号(大正9年2月)	選歌評
アララギ	13巻3号(大正9年3月)	「万葉集短歌輪講49」　長塚節六回忌歌会（2月14日　芝松秀寺）1首
アララギ	13巻4号(大正9年4月)	「伊那（8首）」「軽井沢（8首）」「万葉集短歌輪講50」
アララギ	13巻7号(大正9年7月)	「万葉集短歌輪講51」
アララギ	13巻8号(大正9年8月)	諏訪アララギ歌会（7月10日　上諏訪町図書館）1首　選歌評
アララギ	13巻10号(大正9年10月)	「万葉集短歌輪講52」
アララギ	13巻11号(大正9年11月)	「万葉集短歌輪講53」
アララギ	13巻12号(大正9年12月)	「万葉集短歌輪講54」　編集所便（△土屋文明氏大阪行の序中中村憲吉氏を訪ね・・猶長崎に廻りて斎藤氏を訪ねられ申候。）
初出未詳	大正9年	「夜行車」（『ふゆくさ』） 手荷物の室にとなれる三等車夜ふけて犬のなく声きこゆ 夜行車の手荷物室になく仔犬二つなるらし二いろになく 仰のきてなほ安からぬ居ずまひの硝子戸に足をとどかせにけり
アララギ	14巻1号（大正10年1月）	「富士見原（8首）」（→「富士見高原」ふ）　「新湯（8首）」「万葉集研究第一　大伴旅人の生涯(上)」「万葉集短歌輪講55」　土屋文明氏歓迎歌会（9年11月17日　長崎茂吉宅）3首（→「長崎」2首ふ）
アララギ	14巻2号(大正10年2月)	「大伴旅人の生涯（中）」

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
アララギ	14巻3号(大正10年3月)	「大伴旅人の生涯（下ノ一）」「万葉集短歌輪講56」　諏訪アララギ会（2月5日　鷲の湯）1首
アララギ	14巻7号(大正10年7月)	長野アララギ歌会（5月24日　逢瀬館）1首
アララギ	14巻8号(大正10年8月)	「万葉集短歌輪講57」
アララギ	14巻10号(大正10年10月)	諏訪アララギ会（9月3日　温泉寺）1首
アララギ	14巻11号(大正10年11月)	斎藤茂吉氏送別歌会（10月9日　芝、日限地蔵）1首
アララギ	15巻5号(大正11年5月)	編集所便（土屋文明氏松本市高等女学校長に転ず。）
アララギ	15巻9号(大正11年9月)	左千夫歌碑建立記念歌会詠草（7月16日　富士見信用組合事務所）1首
初出未詳	大正10年～12年	「夏来る」（『ふゆくさ』） 夕づく山日かげ日むきのひだしげくあざやかにして夏さりにけり 二十日大根あまりに繁く蒔きしかば根は太らずに薹立ちにけり ぬきすてし二十日大根の薹のびて吾が五坪の畑梅雨に入る
初出未詳	大正10年～12年	「日向青島」（『ふゆくさ』） 梅雨すぎし浦の浜木綿花朽ちて茎のみ太く立てるあはれさ
初出未詳	大正10年～12年	「赤倉」（『ふゆくさ』） 傾ける青高原の目路かぎる榛のならびにきり下るなり 梅雨霧につき入りて高き山の上に光くぐもる野尻湖のみゆ 霧ひくく襲ひてくらき原の上わらびはほほけてそよぐなりけり
初出未詳	大正10年～12年	「大正十二年九月二日上京遂に空しくかへり来りて」（『ふゆくさ』目次「空しくかへり来りて） 残しおきし唐もろこしは過ぎぬれど八千代は遂にかへり来ざるか やからたち或は離れ失せにけむ八千代は母とあれかしと願ふ かへらむ日もがむと置きし唐なすはうれて白粉をふき出しにけり
初出未詳	大正10年～12年	「木槿の花」（『ふゆくさ』） 日の光けさは濃きかもかげを作してむくげの垣に花を摘む人 朝な朝な垣のむくげをいでて摘む吾が隣人親しく思ほゆ 朝毎にむくげ摘み食す習はしの此の村人にもの言はずけり
アララギ	17巻5号（大正13年5月）	編集便（△土屋文明君は信州を引払って臨時上州の郷里に滞在する。）
アララギ	17巻6号(大正13年6月)	編集所便（△土屋文明君は東京小石川区上富坂町廿三いろは館に移った。法制大学に出て居る。）
アララギ	17巻8号(大正13年8月)	左千夫翁十二回忌（7月6日　亀戸普門院）1首
アララギ	17巻10号(大正13年10月)	「子を守る（5首）」ふ　「某日小俣鶏足寺に詣づ（12首）」（→「小俣鷄足寺に詣づ」ふ） 「幼児をそが祖母の家に伴ひゆく（4首）」（→「幼児をそが祖母の家に伴ひゆく」ふ）
アララギ	17巻11号(大正13年11月)	「那須雲岩寺（4首）」「仏国禅師墓をめぐりて幾基かの石塔並べり（4首）」（→「仏国禅師の墓をめぐりて幾基かの石塔並べり」ふ）　子規先生二十三回忌歌会（9月27日　田端大竜寺）1首
山鳩	9巻11号通巻109号(大正13年11月)	村上成之翠微［出版趣意］（連名）
「翠微」発行趣意書	大正13年11月	（高崎中学校卒業生有志5名連名）
アララギ	17巻12号(大正13年12月)	「那須にては名月の日に遇ひて、所の字の露久保といふもをかしかりき（3首）」　「鰻坂を越ゆ（4首）」「暮れて村里を過ぐ（2首）」「庵野に宿る（1首）」（→「名月の日に逢ひて露久保といふ字もをかし鰻坂を越え暮れて庵野に至り宿る（11首）」ふ）
初出未詳	大正13年	「松本を去る」（『ふゆくさ』） あめやみて黒くぬれ居る畑土に萌えにし韮も剪らしめにけり おほほしく曇れる空のたれくれば小屋に住む山羊の草こひてなく 短冊をはたり忘れぬ人ゆゑに忙(いそが)しきひと日篭り墨する いきどほろしき思をせめて墨すりつ閑(いとま)心に歌書きくらす をさな児はたぬしかるかもいそがしき造り荷の間をめぐり遊べり

土屋文明著作目録（明治期・大正期）

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
初出未詳	大正13年	「追分原」（『ふゆくさ』） あたたかに春の光はかぎろへり枯木ながらの落葉松の山 枯草のかげろふ中のおきな草過ぐるに惜しき春の野のいろ 此の原に下りて遊ばむと思へども家なきに子等は昨日ゆきにし 思ふこと貫きてたる心かはうからは遠くかへらしめたり おきな草おのがむきむきに咲きたれる此の国人もいまは見ざらむ
初出未詳	大正13年	「春月」（『ふゆくさ』） ひさびさにかへり来れる村の上に低く大きく月いでにけり もやの中に光くぐもる春の月地に近くして親しく思はる もやの中に低くかかれる満月の赤くゆらめきめぐるが如し ひむがしに山影をみぬ国原にいでてかかれる月の大きさ おほ母の家をわが家と住みつきてやすき子らかも月をみてゐる
初出未詳	大正13年	「名月の日に逢ひて露久保といふ字もをかし鰻坂を越え暮れて庵野に至り宿る」のうち（『ふゆくさ』の目次「那須」） 夕しづむ那須国原をかこむ山煙(けむ)ほのかなるは那須嶽ならむ
初出未詳	大正13年	「十一月二十日児夏実を伴ひ両崖山に登る」（『ふゆくさ』目次「両崖山」）のうち 鼻をよせ口をゆがむる汝がくせの幼きにしては淋しきものを 離れ住みて時たま来るに甘ゆる児抱きてやれば居ねむりにけり
初出未詳	大正13年	「十一月三十日村上先生逝く即参りて死顔を拝す」（『ふゆくさ』目次「村上先生逝く」） まばらなる髯すこし延びて在りしより淋しき口を結びたまへり 思はねど過ぎてはうとき淋しさを師も言葉には出ださざりけむ 気短きわれをたしなめしかられし尊き人は死なせ給ひぬ
アララギ	18巻1号（大正14年1月）	「十一月二十日児夏実を携へて両崖山に登る。山は足利市外わが小居の背後に立てり。（10首）」（→「十一月二十日児夏実を伴ひ両崖山に登る」ふ12首）
大阪毎日新聞	大正14年1月29日夕刊	「死刑囚の棺（3首）」往
アララギ	18巻2号（大正14年2月）	［無題］（3首）（→「冬日閑居（3首）」往）　「歌集『ふゆくさ』巻末雑記」
ふゆくさ	**大正14年2月28日　古今書院**	380首
アララギ	18巻3号（大正14年3月）	「二月三日平福画伯を訪ねて富津海岸に至る（5首）」（→「上総富津海岸」（4首）」往） 「一月二十四日植物園にゆく。震災バラツクも漸く空し。（3首）」（→「植物園」往）　斎藤茂吉氏歓迎歌会（2月7日　清水谷公園皆香園）1首
短歌雑誌	8巻3号通巻80号(大正14年3月)	「吉野菜摘村（12首）」往
大阪毎日新聞	大正14年3月［8日］夕刊	「明日香にて（4首）」往　※論考では7日
ふゆくさ　再版	**大正14年3月25日　古今書院**	
アララギ	18巻4号（大正14年4月）	「早春某日於足利法楽寺山（8首）」（→「足利法楽寺山（7首）」往）　「『しがらみ』に就いて」「ふゆくさ正誤表」
アララギ	18巻5号（大正14年5月）	「伊香保にて（3首）」往　「ふゆくさ正誤追加」
アララギ	18巻6号（大正14年6月）	［無題］（6首）（→「下宿住ひ（6首）」往）　伊藤左千夫先生第十三回忌歌会（5月3日　普門院）1首
改造	7巻6号(大正14年6月)	「湯元道（12首）」（→「湯元の道」往）
講演	大正14年6月	「大伴家持の歌」（第二回比叡山安居会）
アララギ	18巻7号（大正14年7月）	［無題］9首（→「百合の樹の花（8首）往）
アララギ	18巻8号（大正14年8月）	「或る友を憶ふ（5首）」（→「或る友を思ふ」往）　「家常茶飯（5首）」往
アララギ	18巻9号（大正14年9月）	「亡弟を（3首）」往
翠微	**大正14年9月18日　古今書院**	編　「村上成之先生略年譜」「編集校正後記」
アララギ	18巻10号（大正14年10月）	「蓮をみる（6首）」往　アララギ前月歌評（合評）「土田耕平の歌」「結城哀草果の歌」
アララギ	18巻11号（大正14年11月）	「関宿（4首）」往　「倣古寄弓（1首）」　正岡子規先生忌歌会（10月4日　大竜寺）1首

群馬県立土屋文明記念文学館作成　2020/11/7

土屋文明著作目録（明治期・大正期）

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
文芸春秋	3年11号（大正14年11月）一幕物号	「鎖夏雑詠（15首）」（隣人親疎2、閑日4、足利学校3、蚊を焼く6）（→「銷夏雑詠（6首）」、「蚊を焼く（6首）」往）
大阪毎日新聞	大正14年11月25日夕刊	「横川恵心僧都墓（3首）」（→「叡山所々（10首）」）
大阪毎日新聞	大正14年11月30日夕刊	「叡山浄土院大師廟（3首）」（→「叡山所々（10首）」）
大阪毎日新聞	大正14年12月1日夕刊	「横川山中にて（4首）」（→「叡山所々（10首）」）
アララギ	18巻12号（大正14年12月）	「十二年九月某日（3首）」往
アララギ年刊歌集	**大正14年12月10日　岩波書店**	10首収録
アララギ	19巻1号（大正15年1月）	「十四年八月斎藤茂吉武藤善友二氏に附し熊野三社に詣づ（52首）」（「勝浦（3首）→「熊野勝浦」2首、「那智（5首）」→4首、「大雲取越舟見峠（9首）」「山中作（20首）」→「大雲取越舟見峠（15首）」「小口村旅宿（11首）」、「小雲取遠望（4首）」、「音無川（2首）」、「坐社（2首）」、「熊野川を下る（7首）」往）　前月歌界
東京日日新聞	1月25日号	ブックレビュー「島木赤彦氏著『万葉集の鑑賞及び其批評』を紹介す」
アララギ	19巻2号（大正15年2月）	［無題］5首（→「かへり花（5首）」往）　「新居(1首）」（→「田端新居」往）　前月歌界　編集所便（○土屋文明氏は、元旦早々伊香保温泉へ行き約十日間創作に没頭され候）　稟告（長塚節全集編纂員　麓・憲吉・汀川・百穂・茂吉・赤彦・長塚順次郎と）
橄欖樹	大正15年2月1日　第一高等学校校友会	「懐旧十首（10首）」（→「懐旧五首」5首往）　※校友会雑誌300号記念
アララギ	19巻3号（大正15年3月）	「伊香保（12首）」（→8首往）　前月歌界　長塚節第十二回忌山本信一第七回忌歌会（2月7日芝白金三光町松秀寺）1首
アララギ	19巻4号（大正15年4月）	［無題］3首（未収）　「女児命名（1首）」往　前月歌界
東京日日新聞	大正15年3月25日号	「武蔵野（10首）」往
東京日日新聞	大正15年4月1日号	文「島木赤彦氏の追憶」「島木赤彦の思ひ出」
短歌雑誌	9巻4号通巻93号(大正15年4月)	「歳晩銀座街頭（9首）」（→6首往）
信濃教育	474号（大正15年4月）	就任の辞
初出未詳	大正15年	「人々に」『往還集』 くぐもれるうす青釉の埦(もひ)持ちて山川水をのみにゆかまし 君がたびし柿の朱色ふかければ信濃の秋を恋しとぞ思ふ 御所柿を玉と抱ける幼児は信濃に生れて信濃を知らず
アララギ	19巻5号（大正15年5月）	「四月碓氷嶺を上下す（6首）」（→「碓氷嶺」往）　前月歌界
信濃教育	475号（大正15年5月）	所感
丙寅教育倶楽部	1巻2号(大正15年5月)	「えごの花（短歌）」
アララギ	19巻6号（大正15年6月）	［無題］12首（→「春夏雑詠（7首）」「伊那にて（5首）」往）　「万葉集短歌論講続稿の１」前月歌界
信濃教育	476号（大正15年6月）	「郡役所廃止に伴ふ希望の二三」
アララギ	19巻7号（大正15年7月）	［無題］3首（→「五月雨」往）　「三峯山（4首）」往　「万葉集短歌論講続稿の2」　前月歌界
信濃教育	477号（大正15年7月）	文「久保田氏のことども」
アララギ	19巻8号（大正15年8月）	「田端を去らむとして(5首)」（→「田端を去る(8首）」往）　伊藤左千夫先生第十四回忌歌会（6月27日　亀戸普門院）1首　「万葉集短歌論講続稿の三」　前月歌界　○土屋文明君は7月11日信濃飯田高等小学校で「子規の文学論に就いて」の講演された。猶氏は7月14日に左に移転した。東京府下下落合府営住宅1-20
信濃教育	478号大正15年8月	文「消夏漫筆」　※追悼号は「夏」、論考は「消暑漫筆」
詩歌時代	［1巻4号］大正15年8月	「武蔵秋川峡（8首）」往
文藝春秋	4年8号(大正15年8月)	「箱根雑詠(14首）」（「箱根雑詠（10首）」→9首往、「田端を去らむとして（4首）」→「田端を去る」往）　※「田端を去る」8首のうち4首は初出不詳とされていた（いきどほる、家主の、憎げごと→毒舌を、田端の）
短歌雑誌	9巻9号通巻98号(大正15年9月)	「三熊野詣」（「那智」2首、「大雲取越舟見峠」23首、「田端を去らむとして」2首）　※現代歌人自選歌号

掲載誌名（太字＝単行本名）		著作名（→＝歌集収録時の異同、ふ＝ふゆくさ、往＝往還集、未収＝歌集未収録）
アララギ	19巻9号（大正15年9月）	「五智浜一宿（8首）」（→「五智浜（4首）」往）　「谷浜にて（6首）」往　「月夜信越国境をすぐ。左千夫先生の黒姫は越のこひしきとよませ給へる思ひいでられて（5首）」（→「信越国境」往）　「万葉集短歌論講続稿の四」　三峯詠草1首　8月2日三峯安吾会で講演「大伴旅人」
信濃教育	479号大正15年9月	「消夏漫筆(続）」　※追悼号は「夏」、論考は「消暑漫筆(続)」
アララギ	19巻10号（大正15年10月）	文「教へられたこと」（島木赤彦追悼号）
信濃教育	480号大正15年10月	「往還雑記　1」
講演	大正15年7月11日	「子規の文学論に就いて」（飯田高等小学校）
アララギ	19巻11号（大正15年11月）	「八月七日三峯山安吾会はてつ（1首）」「思ひ設けず人人に附して故山の所所ありくを得て（2首）」「多胡の入野の奥もかなしもとよめるに（2首）」「流離既に久しければ（2首）」「伊香保途上（2首）」（→「三峰山安居会（9首）」往）　赤彦先生追悼歌会（10月16日　上諏訪法光寺）1首
アララギ	19巻12号（大正15年12月）	［無題］6首（→「佐久にて(6首）」往）

群馬県立土屋文明記念文学館作成　2020/11/7